

平成 30 年 3 月 22 日

紫波町議会議長 武 田 平 八 殿

紫波町議会福祉文教常任委員会  
委員長 作 山 秀 一

## 所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会の所管事務について、調査の中間結果を下記のとおり、会議規則第 76 条の規定により報告します。

### 記

#### 1 調査事件

平成 29 年度学校経営等全般について

#### 2 調査期日及び調査先等

平成 29 年 10 月 13 日(金) 紫波町立古館小学校  
紫波町立彦部小学校

#### 3 参加者

委員長	作 山 秀 一
副委員長	細 川 久
委員	戸 塚 美 穂
委員	阿 部 美佳子
委員	細 川 恵 一
委員	北 條 喜久男
事務局	谷地館 勝

#### 4 調査結果

別紙のとおり

## 【現地調査先】

## 紫波町立古館小学校

### 1 沿革の概要

- 明治 7年 高水寺小学校として設立  
明治 34年 古館尋常小学校となる  
昭和 22年 古館村立古館小学校と改称  
昭和 36年 校歌制定（作詞：佐伯郁郎、作曲：鷹觜洋一）  
昭和 49年 創立百周年記念式典挙行  
昭和 52年 校舎新築（東4教室）  
※55、57、63年学級増に伴いプレハブ校舎落成  
平成 5年 校舎増改築  
平成 16年 知的障がい特別支援学級（きらら学級）開設  
平成 24年 自閉症・情緒障がい特別支援学級（きらら2組）開設  
平成 26年 英語教育強化地域拠点校指定  
※27、28年 継続

### 2 児童数及び学級数

		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	特別	合計
児童数	男	32	34	36	41	38	38	4	223
	女	45	38	32	28	35	38	2	218
	計	77	72	68	69	73	76	6	441
学級数		3	3	2	2	2	2	2	16

※特別＝特別支援学級

### 3 学校経営方針

#### (1) 基本理念

自分の夢や希望に向かって、その実現のために粘り強く努力し、岩手の復興のためにたくましく歩み続ける古館の子どもを育てる。

「確かな生きる力を身につけた子どもの育成」

#### (2) 学校教育目標

夢にむかって

あかるく                      あかるくあいさつをする子。みんなのことを考える子

かしこく                      しっかり学び、身につける子。すすんで本を読む子

たくましく                      健康・安全に気をつける子。めあてをもって体をきたえる子

#### (3) 学校経営の方針

「学び」の主体は子どもである。ただし、「教育」の主体はあくまでも教師であり、親であり、地域である。学校においては、校長をトップに、組織の協働による各リーダーを中心とした一枚岩の安定した組織集団として機能することであり、そのためには、きめ

細やかな縦横の報告・連絡・相談が組織をつなぐものとして大切である。

- ① 基礎・基本を重視し、指導法の工夫・改善を行い、学力の向上を図る
- ② 教科のねらいを明確にし、言語活動を充実させ、思考力や表現力を高める授業を進める
- ③ 教育課程の編成を工夫し、特色ある教育活動を展開する
- ④ 子どもの実態を的確に把握し、特性を活かしつつ学校経営に取り組む
- ⑤ 子どもの発達段階をふまえ、計画的・日常的な体力増進や健康保持に努める
- ⑥ 家庭・地域との連携や交流を深め、子どもの健全育成を図る
- ⑦ 全職員の参画意識、協働により、学校経営の活性化を推進する

#### (4) 経営の重点

- ① 学力向上  
個人差を配慮した指導。思考力、判断力を高める工夫。自学自習の姿勢、学習習慣の確立
- ② 学級経営  
H-QUの活用により経営力のアップ。学級経営案作成から1年間のゴールを見通したPDCAサイクルの確立  
※ H-QU=より良い学校生活と友達づくりのためのアンケート  
※ PDCA=P l a n (計画)、D o (行動)、C h e a c k (評価)、A c t (改善)
- ③ 道徳教育  
「道徳の時間」の指導法の工夫と改善。思いやりの心の育成。生命を尊重する子どもの育成
- ④ 生徒指導  
基本的生活習慣の定着。教育相談の充実。問題行動の予防・早期発見
- ⑤ 研究・研修  
実践的・検証的な主題研究の取組によるコミュニケーション能力の育成(英語)。授業力向上に役立つ研修会設定
- ⑥ 復興教育  
教育課程のあらゆる場面での指導。岩手の復興に主体的に取り組む態度の育成
- ⑦ 健康・安全教育  
規律ある生活習慣の確立。教科体育の充実と日常的取組による体力向上
- ⑧ 教育環境整備  
言語環境の充実。掲示活動の工夫。図書館の機能向上。校舎内外の清掃の徹底と美化
- ⑨ 家庭・地域連携  
P T A活動の活性化。学校評価などの取組、開かれた学校づくりの推進。校報、HP等による情報発信

#### 4 質疑応答

問1 いじめによる不登校、保健室登校する児童はいるのか。

答1 保護者にいじめ対応について本校の基本的な考え方を文書にて配り、家庭や教師間の連携により問題が大きくならないうちに解決している。しかし、集団になじめない理由から保健室登校している児童が1名。はばたきに2名兄弟で通学している児童がいる。

問2 通学途中に災害など起きた場合の対応は。

答2 「その他の危険物及び有害物等」の情報への対応についてとして保護者に文書を配布し、まちcomiメールに登録してもらい学校側から連絡事項を配信している。また、通学途中で何かあったら、近くの家に入れてもらうように指導しており、地域の方々への協力支援体制を構築していく。

問3 英語教育強化地域拠点指定校になっているが成果は。

答3 1・2年生はあいさつを交わせるようになっていて、3・4年生は友達とコミュニケーションが取れるようになり楽しんでいっている様子が伺える。5・6年生は英語活動を楽しんではいるが、授業に対する不安が出てきている。

問4 教師の多忙が心配されるが状況は。

答4 経営方針が円滑に行われ、まとまっており、協力し合い複数対応で乗り切っている。

#### 5 所感

校長をはじめとする副校長、主幹教諭の連携が図られているのを、スムーズに行われた学校説明を聞きながら確認することができた。授業の様子は、先生方の明るい元気な対応が、子どもたちにも波及し笑顔いっぱい気持ちの良い雰囲気であった。

学校側の配慮で4年生の2クラスに二手に分かれ、5人ずつの班に1人ずつ座り、給食を子どもたちと一緒に摂ることができた。はじめは、緊張している子どもたちだったが、子どもたちによる質問が絶え間なく続き、本当に楽しく、おいしい給食を子どもたちと一緒に満喫することができた。

学校側から頂いた資料も、しっかりと細かく丁寧なものになっており、行き届いた配慮が保護者や地域の方々にも向けられているのだと感じとることが出来た。

大規模校には行き届かない点があるのではと心配される声を聞くが、縦横の組織の仕組みがしっかりとしており、何よりも、子どもたちの笑顔に反映されている。将来を見据え、これからの子どもたちが必要とする資質・能力のためにはクラス替えや、席替えによる変化のある環境の在り方について、また、教師の多忙化が解消され働きやすい環境にするために、慎重に審議し対策を講じていかなければならない。

## 【現地調査先】

## 紫波町立彦部小学校

### 1 沿革の概要

明治 28 年	校舎を新築移転(彦部字定内)
昭和 22 年	彦部小学校と改称
昭和 48 年	創立 100 周年記念式典挙行
昭和 56 年	プール落成
昭和 62 年	現校舎新築落成式典並びに祝賀会挙行
平成 22 年	学校公開研究会(国語)
平成 23 年	校舎・体育館屋根の塗り替え工事
平成 27 年	全国学校体育研究優良校受賞

### 2 児童数及び学級数

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計
児 童 数	男	2	3	1	5	0	5	16
	女	5	5	3	6	2	5	26
	計	7	8	4	11	2	10	42
学級数		1	1	1		1		4

### 3 学校経営の方針

- (1) 一人一人の子どもを大切にして、地域や学校の特性を生かした教育を推進する。  
(人間を尊重)
- (2) 子どもが意欲をもって取り組み、学ぶべき内容を身につけ、楽しいと感じる授業を目指して常に努力を続ける。(学級経営を基盤とした学力向上)
- (3) 学校、家庭、地域による協働態勢を緊密にし、3者融合による教育を推進していく。  
(子どものための地域・保護者・学校の協働)
- (4) 広い視野を持たせることを意識し、高い理想と確かな実践を志向する教育を推進する。(星を見つめて地を歩む)

#### 重点

- ・心身の健康が学力向上につながる(あいさつ、外遊び、楽しい学級)
- ・学習を支える力の底上げと個に応じた指導の充実

### 4 彦部小学校まなびフェスト

心豊かに たくましく 生きぬく ひこべっ子の育成をめざします。

- (1) すすんで学ぶ子

ア 学校

(ア) わかる・楽しい授業をめざし、基礎・基本の定着を図ります。

a 読み・書き・計算

・読書、視写

b 自分の考えを友達に伝わるように表現する。

・内容・時間、授業との連動

(イ) 基本的な生活習慣の定着を図ります。

・4つの視点

①姿勢 ②返事 ③話し方 ④丁寧な字

#### イ 家庭 地域

(ア) 毎日家庭学習をがんばります。

・1・2年生 20分以上、3・4年生 40分以上、5・6年生 60分以上

(イ) 家族で協力して家庭学習に取り組みます。

・テレビを消して集中する

#### (2) 思いやりのある子

##### ア 学校

(ア) すすんで元気なあいさつができるようにします。

・自分から、笑顔で

(イ) 友だちと仲良く遊び、目標に向けて助け合う学級をつくります。

・規律と思いやり

・児童会活動の活性化

(ウ) 地域の方々とのふれ合いを大事にします。

・田植え踊り ・としな作り (\*としな=年縄)

・故郷を知る学習 ・三世代交流

#### イ 家庭 地域

(ア) 家族や地域でもあいさつをします。

・「ありがとう」「ごめんなさい」感謝

・「おはよう」「こんにちは」礼儀

(イ) 手伝いをがんばります。

・家族の一員として仕事をします

#### (3) がんばりぬく子

##### ア 学校

(ア) 命を大切にします。

・交通事故「0」不登校「0」いじめ「0」

(イ) 健康な身体をつくります。

・外遊び(「光・暗闇・外遊び」から)

・クロカン、縄跳びで体力づくり

・虫歯・肥満予防

(ウ) 一生懸命、掃除をします。

(エ) 食の指導を進めます。

・好き嫌いせず、良い姿勢

イ 家庭 地域

(ア) 「光・暗闇・外遊び」を実践します。

・光：歩いて登校

(イ) 交通ルールを守ります。

・飛出し、ななめ横断はしません

## 5 施設管理について

体育館の排煙装置のハンドルが取れている。中庭に出る外階段が壊れて危険な部分がある。

## 6 質疑応答

問1 先生の方が減り、個々の負担が増えているのではないかと。

答1 去年よりは時間が増えており、土・日曜も出勤している。9月に80時間を目安に調査したが、70時間を超えている教諭が2人いた。

問2 今年度大槌町に行っているようであるが内容は。

答2 旧庁舎が取り壊しの前を見るために行った。平成28年度は宮古市で震災を経験された人の講演会を企画した。

問3 野村胡堂あらえびす記念館の活用は。

答3 4年生が調べ新聞にまとめている。クラブ活動でも記念館に行って学芸員から話を聞いている。

問4 大規模校との交流会をやってほしいが。

答4 来年の林間学校を4校でやっていくことになっている。陸上記録会とかの機会もある。（\*4校：彦部小、星山小、佐比内小、赤沢小）

問5 熊は出ているのか。

答5 近くの山では見ない。赤沢との境では出ているようである。今年は蜂が多く2個巣を落としていただいた。マムシも出ていると聞いている。

問6 集団登校はしているのか。

答6 大巻方面では集団登校が見られる。

問7 先生方は英語の授業にどのように関わっているのか。

答7 ALTの先生を中心に担任の先生と打ち合わせをして授業をしている。

## 7 所感

校舎内では、廊下を歩いていた子ども達が「こんにちは」と元気な声で挨拶をしてくれた。学校のあいさつがしつかり取り組みされていることを感じた。

複式授業を参観したが、複式学級にそれぞれすこやかサポートと町の指導サポートの先生がいて充実していると感じた。

学校環境は良く、広い図書室と多くの蔵書数。また、特別教室を使い児童全員で学年を越えた縦割り班の活動により準備して給食を食べている。課題といえば男性教諭が一人ということで、水泳、陸上の授業で男性教諭がいるとよいと話していた。

現在、複式学級が2クラスあり、来年の入学児童は3人とのこと。紫波町の東部、西部地区の児童数は減少している。町の今後の学校の在り方について、紫波町学校教育審議会が答申している。東部地域は長岡を除く4校が複式学級であり、子どもの健全な育成のためには、少人数学級でよいのか、考えていかなければならないと感じた。